

「第2回食と農の祭典」開催決定

11月19(土)～20(日)に東京・日比谷公園にて、第2回食と農の祭典「ファーマーズ&キッズフェスタ」が開催されます。

主催は第2回食と農の祭典実行委員会(構成団体:社団法人日本農業法人協会、J-PAO、日本ブランド農業事業協同組合、一般社団法人日本養豚協会)。

また、多くのJ-PAO会員に協賛をいただいています。

これからポスターの配布等が始まります。

多くの方にご来場いただきますようお願いいたします。

ホームページは以下の場所にあります。

<http://farmers-kids.jp/>

→J-PAOトップページのボタンをクリックしても表示できます。

アドバイザーミーティングを開催

J-PAOは、日本政策金融公庫農林水産事業本部から農業経営アドバイザー試験制度の運営事業を受託しています。

この事業の一環として、東京・千代田区・星陵会館にて9/15(木)～9/16(金)に農業経営アドバイザー試験合格者を対象とした研修「平成23年度第1回農業経営アドバイザーミーティング」を開催し、280名の農業経営アドバイザーが参加しました。

9/15には、(株)Okuruskay(オクルスカイ)・村山代表取締役(石川県)から、「新規参入農業経営者からの提言『アドバイザーに期待すること』」についての講演と、3人の農業経営アドバイザーから事例発表がありました。

また、9/16には、農林水産省食料産業局企画課・神井弘之食品企業行動室長から「フード・コミュニケーション・プロジェクト(FCP)について」、(株)日本政策金融公庫営業推進部・森和志農業課長から「農業経営者向け資金制度について」講演がありました。

農商工連携人材育成事業が終了

J-PAOは、本年5月から実施していた農商工連携人材育成事業について、農業者の現地研修として、8/27～28に(株)サラダボウル(山梨県)、9/3～4に(株)野菜くらぶ(群馬県)と二つに別れて実施しました。多くの受講生が農作業は初めてであり、また、農業経営者の話をその場で聞

くことができ、書物を読むことだけではわからない様々なことがわかりました。

今回と次回のJ-PAO Pressにて、2つの農業実習の内容を紹介します。

そして、9/24～9/25には、様々な講義やロールプレイング研修を行い、この研修の最終課題である(株)内子フレッシュパークからりが農商工連携で開発した商品の「販売戦略展開表」と「セールスマニュアル」のブラッシュアップを行いました。

集合研修はこれにて終了。あとは最終課題を受講生が提出し、それを(株)内子フレッシュパークからりに提出して終了となります。



写真:ロールプレイング研修の様子

栃木県「農業ビジネススクール」継続実施

栃木県農業大学校主催の「とちぎ農業ビジネススクール」が開講しています。このビジネススクールの中で、昨年度に引き続き、J-PAOが委託をうけ、担当している「経営改革プランニング」が8/9から始まりました。

内容(全7回)はまず事例研究を行い、その後自らの経営拡大プランの作成を講義と演習を通じて行い、最後に発表をするというものです。講師は、運営会員の農業経営支援センターが務めます。

韓国KBSの取材を受けました

J-PAOは、9/7(水)に韓国放送公社(KBS)の取材を受けました。

取材陣は、日本農業に関するドキュメンタリー番組制作の為に来日し、J-PAOの活動状況について高木副理事長へ熱心にインタビューをしていました。また事務所内の様子も撮影されましたので、我々事務局員の登場もあるかもしれません。

番組は10/26(水)23:30～24:25に韓国で放映予定となっています。放映後、J-PAOに番組のDVDが贈られる予定です。

事務局に新メンバー2名加わる

9月末で事務局を退職した千葉氏に替わり、新メンバーが2名加わりました。地域資源利用型産業創出緊急対策事業（バイオマス・太陽光発電）を担当します。よろしくお願ひします。

- 岩崎 淳弘（いわさき あつひろ）
- 北川 和幸（きたがわ かずゆき）

専門部会の動き（9月分）

J-PAOの専門部会につきまして、「事業化・販売支援①ビジネスマッチング」と「J-PAOのビジネスモデル部会」は部会の中での議論が収束しています。また、一方で東日本大震災の復興支援の対応や、農産物輸出のJ-PAOとしての関与の在り方の検討など、新たな検討課題も発生しています。そこで9月の専門部会から以下の4つの専門部会に再編し、運営していくことになりました。

- 東北農業復興プラン検討部会
- 輸出 — 農産物輸出
- 人材育成① — 新規就農・農外参入支援
販売スキル向上
- 人材育成② — マネジメントスキル向上

【東北農業復興プラン検討部会】

福島県南相馬市の農業復興プランについては、複合型大規模農場構想の具体化を支援する方向で合意しており、7月下旬に地元研究会が発足し、J-PAOもメンバーに参加しています。9月上旬に土地改良区の責任者が上京し、研究会の検討状況やJ-PAOに期待する具体的な支援内容の説明を受けました。これらの内容を部会メンバーと共有し、メンバー各社が次回の専門部会に具体的な支援策を持ち寄り、検討することとしました。

【輸出】

4月から輸出プロジェクトとして取り組んだ成果である中国向け米輸出の可能性のレポートをきっかけにこの部会を設置した旨について伝え、この部会での到達点を何にするのかを議論しました。輸出をしている様々な事例の話が出ましたが、まずは商社、農業者、JETRO、経産省などより、具体的な情報を収集することになりました。

【人材育成①】

今回から構成メンバーが増員となったこともあり、改めて部会長と副部会長の選出を行いました。部会長にはNPO法人阿蘇エコファーマーズセンターの木之内氏が、副部会長には農業経営支援センターの岸本氏が選出されています。また、新たな検討課題として、企業の農業参入について、その成功のポイントについて探っていくこととし、まずは各構成メンバーの取組状況と課題について話し合いました。次回以降、参入受入に積極的な自治体や参入支援を行っている農業法人をお招きして意見交換を進めていくことにしています。

【人材育成②】

引き続き次回のトップマネジメントセミナーの企画について検討しました。開催日時については、関連する研修会の開催日程を勘案した結果、2/24（金）の午後とすること、開催場所についても会場（北とぴあ（東京都北区））の予約をすることを決めました。

講師（テーマを含む）、パネラーについては、部会メンバーが案を考えることとしました。

また、新たにこの部会で、農業経営者・農業経営者を支援する者に対するJ-PAO主催セミナーを検討することとしました。

主な活動（8/19～10/4）

- 8/19 大分県農業ビジネススクール（山崎運営会員・農業経営支援センター）
- 8/21 山梨中央銀行ビジネススクール（福田運営会員）
- 8/27 J-PAO 新事務所（神田神保町）へ移転
- 8/27～28 農商工連携人材育成事業 実地研修（株サラダボウル）
- 9/3～4 農商工連携人材育成事業 実地研修（株野菜くらぶ）
- 9/3 第四銀行（行内研修会）（神崎）
- 9/12 第51回企画運営委員会
- 9/24～25 農商工連携人材育成事業 講義・ロールプレイング研修
- 10/4 栃木県農業ビジネススクール（神崎）

J-PAO 研修農場 実地研修

その1 ㈱サラダボウル(山梨県)

8/27(土)~28(日)にJ-PAOの研修農場である㈱サラダボウルをJ-PAO事務局と農商工連携人材育成事業のメンバーで訪問しました。

そこでは、農業実習を行うとともに、田中社長より、様々なお話を伺うことができました。

JR身延線東花輪駅から徒歩で10分程のところ(に)に㈱サラダボウルの事務所があります。事務所としてのスペースと共に、キッチンと従業員が朝食や昼食を食べるスペースもあり、その奥には研修生が泊まることのできる二段ベッドや個室、さらにはお風呂もあります。

また、事務所の向い側には、「サラダボウルキッチン」というサラダボウルで収穫した野菜をメインにしたレストランがあり、さらに歩いてすぐのところには、取引先でもある地場のスーパーマーケットがあるという立地です。

そこに我々(5人)が到着し、まずは田中社長から話をうかがいました。

「農業は大きなビジネスチャンス」で始まった田中社長のお話では、以下が印象に残っています。

- ・農業をやりたい優秀な人材はたくさんいる
- ・農産物を作る場所(農地)はたくさんある
- ・農産物を買いたい人はたくさんやってくる
- ・情報(ノウハウ・知識・経験)が集まる

そして、農業の常識を疑って取り組んでいった結果、㈱サラダボウルでは、いくつかモデルができていました。

一つ目は、地域最大のスーパーで、規格は量目やサイズなどは特に設けず、露地野菜(ほうれん草、小松菜など)を「98円」というお客様目線からの価格設定をして、年間を通じて固定価格での提供です。

この取り組みの実現に対しては、様々な課題がありました。価格は安いようにみえますが、決して安売りしているわけではありません。生産工程、出荷工程を見直して、通いコンテナでの出荷、規格に合わない野菜を廃棄するのではなく、畑にある野菜にあわせて袋の方を選んで入れる、基本的にはスーパーが全量引き取るなどを行うことで実現できています。これは、そのスーパーとサラダボウルが一緒になってどうすれば実現できるのかの課題を一緒になって解決していった一つの成果です。

二つ目は各作業工程の見直しです。「農業は自然相手なので、手間がかかる」として非効率な作業に疑問を持たない場合が多いです。

農業は「ものづくり」であり、すべての作業には意味があり、必要とする作業をどのように構成していくのか、という戦略的な視点を持つことでいくらかでも作業工程を省いたり、統合したりできる。と考へ、5S(整理、整頓、清掃、清潔、躰(習慣化))を導入し、定期的にミーティングを行い、改善をしています。

実際、サラダボウルの農業現場では、車を停める位置は、最も合理的な場所が線で示されており、カマなどの作業に必要なモノは、番号がつけられており、すべて置き場も決められており、何が無いのかが一目でわかるように工夫されていました。

3つ目は、現場の作業の「見える化」です。サラダボウルでは生産現場における作業工程を分解し、職務項目を7,000項目以上に分類し、さらにこの項目を5段階のレベル分けを行っています。これにより、どんな作業を行わなくてはならないのかを社員がわかるようになり、多くの成果をあげているとのことでした。

農業実習では、8月末のまだまだ暑い中、ハウスでの除草作業や、空芯菜の収穫・袋詰め、なすの選果作業などを行いました。

参加メンバーのほとんどが農作業は初めてであり、体力的にもきつかったり、作業に慣れるまでに時間がかかったりしていましたが、20代が中心のサラダボウルの社員や1週間の短期研修生と共に充実した時間を過ごしました。



写真：空芯菜の収穫

㈱サラダボウルのスローガンは「農業の新しいカタチを創る」～農業は幸せ・感動販売業～です。

農業の可能性を参加した全員が共有し、研修を終えました。(文責：J-PAO事務局 高田)